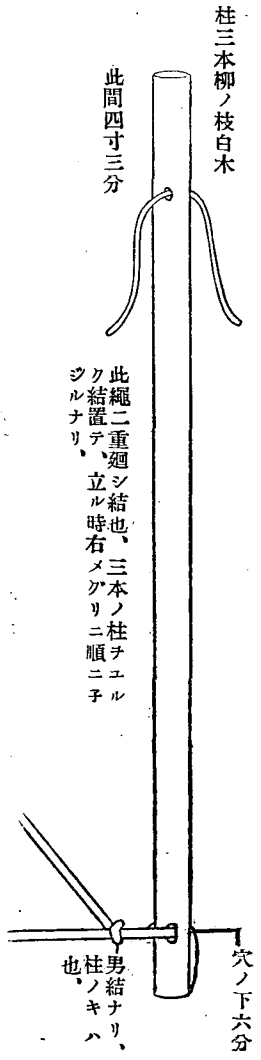

〔延喜式三十六主殿〕新嘗會供奉料○中略

燈樓九具、盤形燈臺三基、並隨損請替、

〔兼葭堂雜錄一〕和州郡山の鴻儒谷口元淡老の製せられし圓燈あり、其製式に云、

上下圓棬小板建三柱連接之、別如前式少大、而牝牡之半面各貼紙、下製圓臺安牡者、其牝回旋如輪藏樣闔、則柱々相對、開則重複、上鉤鐵鉉提之、架細鐵梃於牡之兩柱、擎出鐵環、載缸起植鐵牙插燭臺、設抽匣而施小環、內納燈心發燭之屬、臺柱鐵器皆漆焉、上下板相去壹尺八九寸、下板去臺二寸許、臺高二寸餘、圓徑九寸左右、

沙門英辨書

〔阿彌陀院寶物目錄〕白銅燈臺一基高三寸六分、足三、

〔大館常興日記〕天文十年二月廿六日、爲御使祐阿來入、○中略御番所の燈臺の樣體もと〳〵趣同被尋下之、仍御返事言上、○中略御番所燈臺は、むかし花御所御時分は、こくゑつ金物井臺有之と存候、たしかにおぼへ不申候、小川御所○足利義尙已來は、白木の御とうだいと存候、將又小川御所御番所は、四間の御座敷にて、そのおくのかたに、又御座所候に、御茶のゆさせられ候て、御番衆御茶被給候つる、その御ちやのゆの所には、たんけいと存候、花御所御番所はひろく御ざ候て、やがて其御座敷に、御茶のゆさせられ候、然間べちに又火をとぼさせ候に不及候也、此趣共ゑるし申上也、

〔下學集下器財〕短檠（タンケイ）